

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・未来社会を創造する資質・能力を身に付ける子 ・プレゼン教育・歩み出資・越え挑戦し続ける子 ・キャリア教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXを地域で実践する推進 ③学校の関係者との協働による郷土教育の推進 ②子ども、自己実現を支える教育の推進 ①豊かな心、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	心を豊かに ・たくましい生徒 ・自学・協調・健康	殻を破り ・相手意識をもち ・一歩を踏み出す生徒の育成	学習づくり	① ○生徒一人ひとりの実態把握	・興味関心や既習内容の定着度等の把握	B	○学校評価の「『わかった』『できた』という実感がもてる授業を行っている」の項目に対する生徒の肯定的な評価の割合は、83.9%と80%を上回る結果となった。100%に到達しない要因としては、生活アンケートの結果から「授業内容がよくわからない」「学習内容が身についていない」と思っている生徒がいるためであると考えられる。したがって、来年度は一人一人の実態把握や個に応じた課題を設定することで、残り約16%の生徒にとっても「わかった」「できた」と実感できる授業を実践していく。
					① ○個別最適な学び	・まず、自分の力で取り組む課題解決学習 ・追究方法を自ら選択できる多様な学びの保障	B	
					① ○協働的な学び	・自己内、資料、仲間等の対話の位置付け ・議論を中心に据えた授業構成 ・自ら考えや疑問を表出できる仲間関係づくり ・プレゼンを活用した発表の工夫や改善	A	
				生活づくり	② ○願いをもち、自己実現に向けての取組	・「なりたい自分」の設定と具体的な評価による変化や伸びの実感 ・相互評価を通しての自己有用感の向上 ・自分の長所や強みの発見と自覚	A	○学校評価の「自分が目指す『なりたい自分』にむけて努力している」という項目に対する生徒の肯定的な評価の割合は、88.1%と90%台に近づく結果となった。また、「互いの違いを認め合い、分け隔てなく関わることができる」の項目に対する生徒の肯定的な評価の割合が87.1%であるのに対して、教員の肯定的な評価は58.3%に留まっている。これは、固定化された仲間関係で成長してきたため、違いを認め合うということの意味理解が薄いと考えられる。したがって来年度は、互いのよさや違いを認め合える活動を積極的に行っていく。
					② ○生徒自身の手による学級活動・生徒会活動	・生徒のアイデアや願いの尊重、実現 ・見栄えよりやりがいや達成感を味わえる活動 ・トライ＆エラーの実践	B	
					② ○仲間とのちがいの受容	・互いのちがいを認め合える仲間関係 ・「ちがいこそよさ」の認識 ・いじめを許さない仲間関係 ・「ぎふ いのちの教育」の実践	B	
				地域づくり	③ ○地域の行事やイベント等への積極的な参加「地域に打って出る久々野中」	・地域行事でのボランティア参加、発表・各施設での合唱やコンサート・地域防災学習への参加等	B	○学校評価の「地域に関心を持ち、諸活動に進んで参加している」という項目に対する教員の肯定的な評価の割合は、91.7%と高い数値を示しているのに対して、保護者の肯定的な評価は79.8%、生徒の肯定的な評価の割合は74.2%に留まっている。この乖離の要因として、20数%の家庭が地域に参画していないということが考えられる。したがって来年度は、学校が地域との橋渡し役となり、地域に参画する機会を多くつくり、PR活動をしていく。
					③ ○久々野の未来を創造する夢プランの推進「地域に発信・提案する久々野中」	・平和学習を通じたふるさとの幸せの実感、継承プラン(3年) ・キャリア教育を中心としたふるさとの産業発展プラン(2年) ・ふるさとの自然や文化等、地域資源発見や活用プラン(1年)	B	
					③ ○家庭やPTA、保育園や小学校、久々野支所、学校運営協議会、まちづくり協議会との連携・協力	・高屹山登山(1年)[まちづくり協議会協力] ・キャリア教育講演会[PTA] ・学校運営協議会を小中合同で実施	A	

学校運営協議会における主な評価内容

○郷土教育や地域と共にある学校、学校だより等久々野にとってありがたい教育を実践している。
○平和学習で成果を収めている。地域としても誇らしい。
○郷土教育やキャリア教育で中学生が地域社会の構成員になってほしい。